

2018/4/12

柏の景気情報（平成30年3月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成30年3月分）

○ 調査期間 : 平成30年3月27日 ~ 平成30年4月6日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	18	40.9%
製造	33	14	42.4%
卸・小売	43	23	53.5%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年3月の調査結果のポイント】

◀業況DIはすべての業種で改善したが、先行きは慎重な見方もありほぼ横ばい▶

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.4(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が10.8ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲20.0)、卸小売業▲26.0(同▲40.9)、サービス業±0.0(同▲7.1)、建設業▲11.1(同▲14.2)である。

【建設業】からは、「暖かくなり動き始めた感じがする。来年の消費税UPを見込んで出足がいい」(一般土木建築工事業)、「景況が改善している要因は、やはり新生活や人事異動などで貸アパートの畳表替が急増しているため。フレッシュャーズに幸あれ！」(内装工事業)、「多くの仲間が肌で感じている現状は、不況業種に仲間入りしている感が否めない。が、私はそう捉えてなく、住宅業界はまだまだ創意工夫・努力が必要。技術向上においても美容業界の技術向上意欲を見習いたい」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「年度末の気配が全く感じない。消費税UPの動向を追いかけたい」(印刷業)、「オリンピックへの意識が働いているのか少し活気を感じる。如何にして生活を安定させるかの不安が大きい」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは「昨年同月に比べ雨が多かった為客数減。特に衣料品・住まいの品が売上減。食品は生鮮部門の売上が厳しい状況」(各種商品小売業)、「当店ファンのお客様は遠方の方も多いが、近隣の購買層が高齢化が甚だしくお客様のパイは減少している」(書籍・文房具小売業)、「卒業や送別会等の特注が例年より増。その分お店の売上減のため結果トントン」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「北部開発のため、道路整備・住宅開発が盛んなため、昼ランチの来店客が増加」(食堂・レストラン)、「問合せ件数は減少。その上、買うという所まではいかないが慎重な方が多いので結論までの日数が長い。売却査定も多いが、売るまでの時間が同じように長くかかる」(不動産管理業)、「飲食の開店ラッシュは不動産業にも好影響。商売は今あるものをどう利用するかだが、そごう跡の無利用のムダが残念でならない」(不動産賃貸業)、「大規模な建物修繕がここ数年で複数棟到来するので、月次の積立額を増額した。なるべく自己資金で賄えるようにしたいが、予想外の出費も多くなかなか大変」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「採用活動は実施しているが応募者少なく採用が厳しい状況。食品売場を中心に欠員が発生している」(各種商品小売業)、「食に係る業態は、人手不足(採用難)などにより収益面で悪化。また、労務管理などの行政規制強化により、小規模事業者としては事業継続にメリットを見いだせない」(各種食料品小売業)、「人手不足が解消されない」(一般貨物自動車運送業)、「働き方改革は中小には厳しい」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

◎原材料費高騰

各業種より、「売上は増加しているが、材料・その他経費の値上がりで収益率は減少気味」(電気工事業)、「部品の入手性の悪さは改善されない。材料費・運賃が値上げしており収益への影響が懸念される」(機械・同部品製造業)、「食に係る業態は、食材費の高騰などにより収益面で悪化」(各種食料品小売業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲19.7	▲10.0	±0.0	▲60.0	±0.0
11月	▲23.6	▲19.0	▲6.6	▲50.0	▲12.5
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	±0.0
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲7.1
3月	▲11.4	▲11.1	±0.0	▲26.0	±0.0
見通し	▲5.7	▲5.5	±0.0	▲13.0	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成30年3月の業況についての状況】

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.4(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が10.8ポイント縮小した。

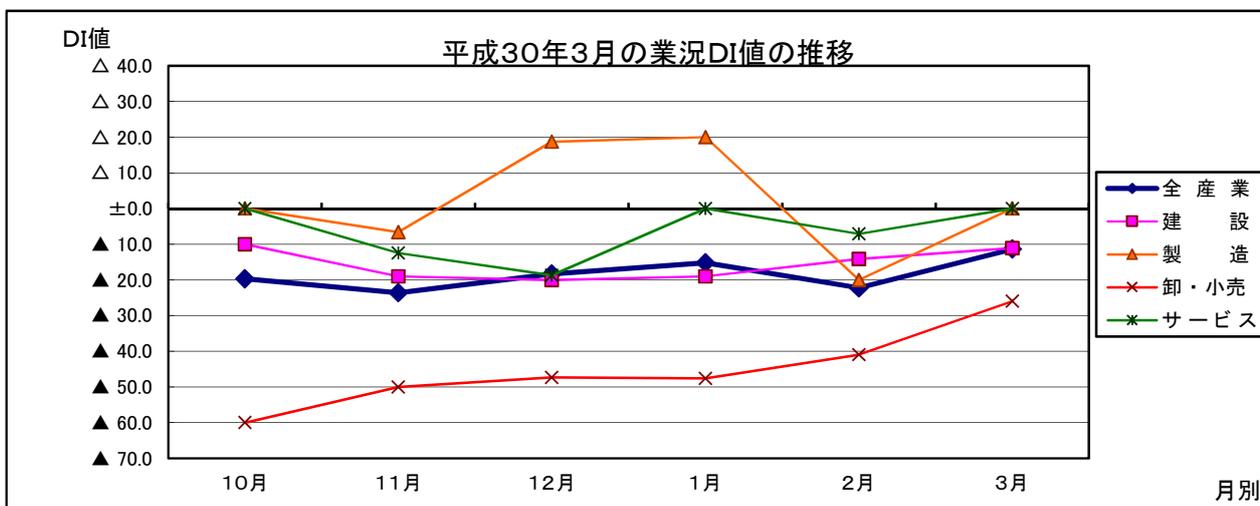
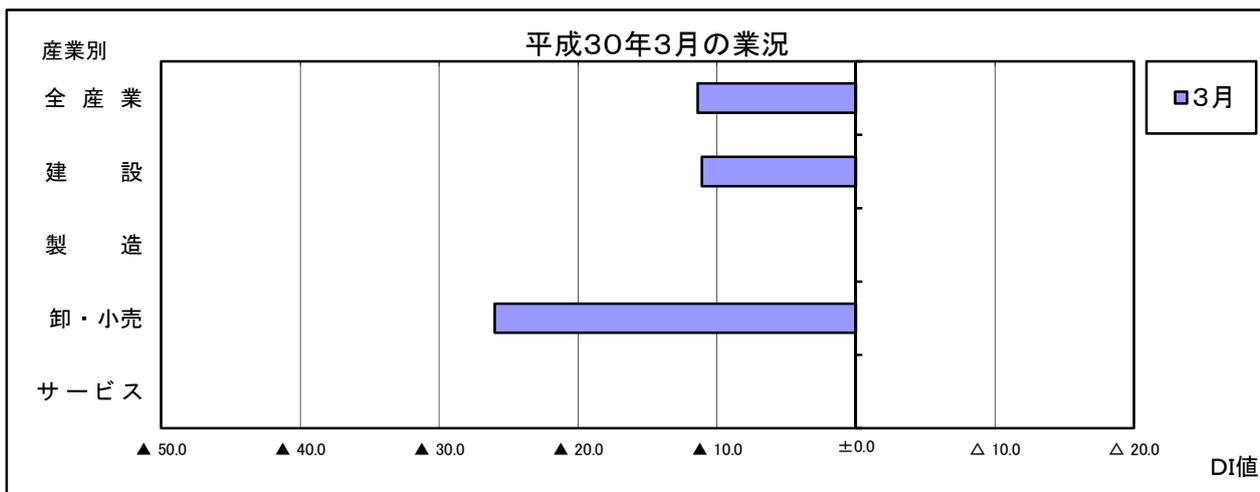
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲20.0)、卸小売業▲26.0(同▲40.9)、サービス業±0.0(同▲7.1)、建設業▲11.1(同▲14.2)である。

○向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.7(前月水準▲1.3)となり、マイナス幅が4.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲6.6)、卸小売業▲13.0(同▲18.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△14.2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲5.5(同△9.5)である。

平成30年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲19.7	▲23.6	▲18.3	▲15.2	▲22.2	▲11.4	▲5.7(▲1.3)
建設	▲10.0	▲19.0	▲20.0	▲19.0	▲14.2	▲11.1	▲5.5(△9.5)
製造	±0.0	▲6.6	△18.7	△20.0	▲20.0	±0.0	±0.0(▲6.6)
卸・小売	▲60.0	▲50.0	▲47.3	▲47.6	▲40.9	▲26.0	▲13.0(▲18.1)
サービス	±0.0	▲12.5	▲18.7	±0.0	▲7.1	±0.0	±0.0(△14.2)



【平成30年3月の売上についての状況】

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△1.4(前月水準▲15.2)となり、プラス幅が16.6ポイント拡大した。

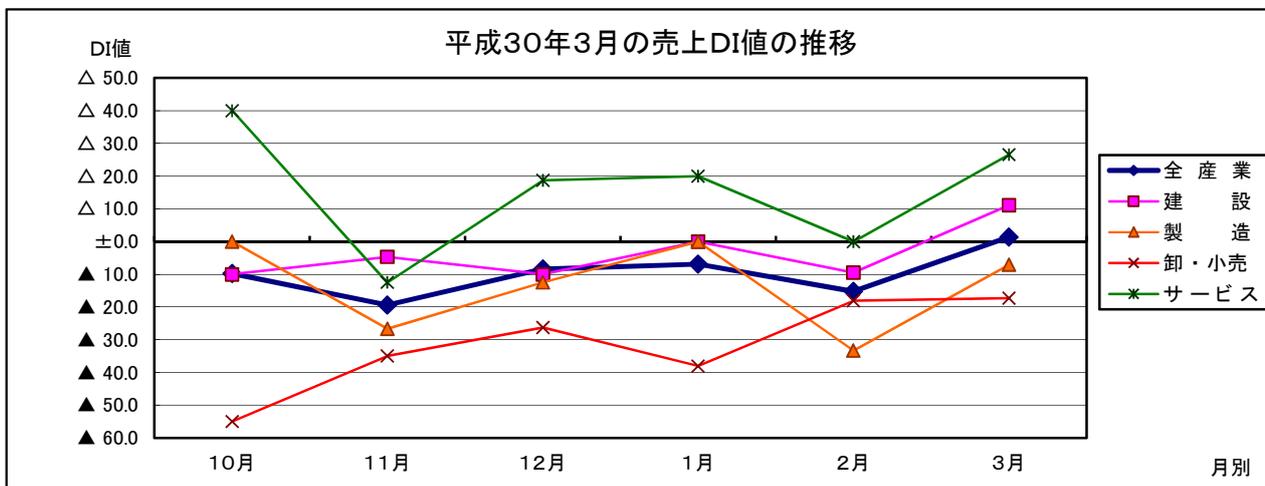
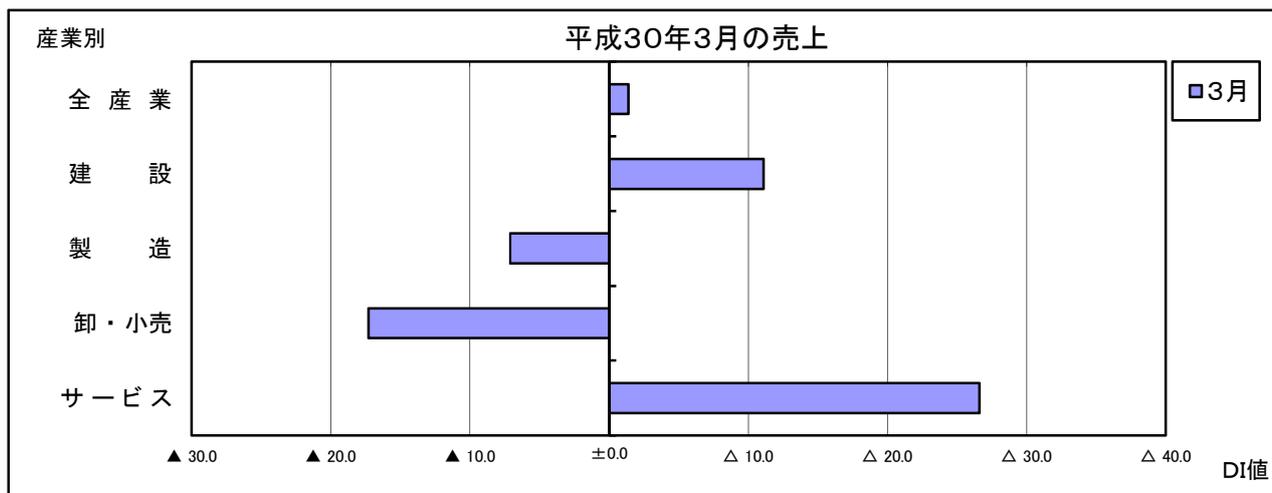
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△26.6(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△11.1(同▲9.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同▲33.3)、卸小売業▲17.3(同▲18.1)である。

○向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.7(前月水準±0.0)となり、マイナス幅は5.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲13.0(同▲13.6)である。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△9.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6.6(同△7.1)である。

平成30年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲9.8	▲19.4	▲8.4	▲6.9	▲15.2	△1.4	▲5.7(±0.0)
建設	▲10.0	▲4.7	▲10.0	±0.0	▲9.5	△11.1	±0.0(△9.5)
製造	±0.0	▲26.6	▲12.5	±0.0	▲33.3	▲7.1	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲55.0	▲35.0	▲26.3	▲38.0	▲18.1	▲17.3	▲13.0(▲13.6)
サービス	△40.0	▲12.5	△18.7	△20.0	±0.0	△26.6	▲6.6(△7.1)



【平成30年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲26.3)となり、マイナス幅は16.3ポイント縮小した。

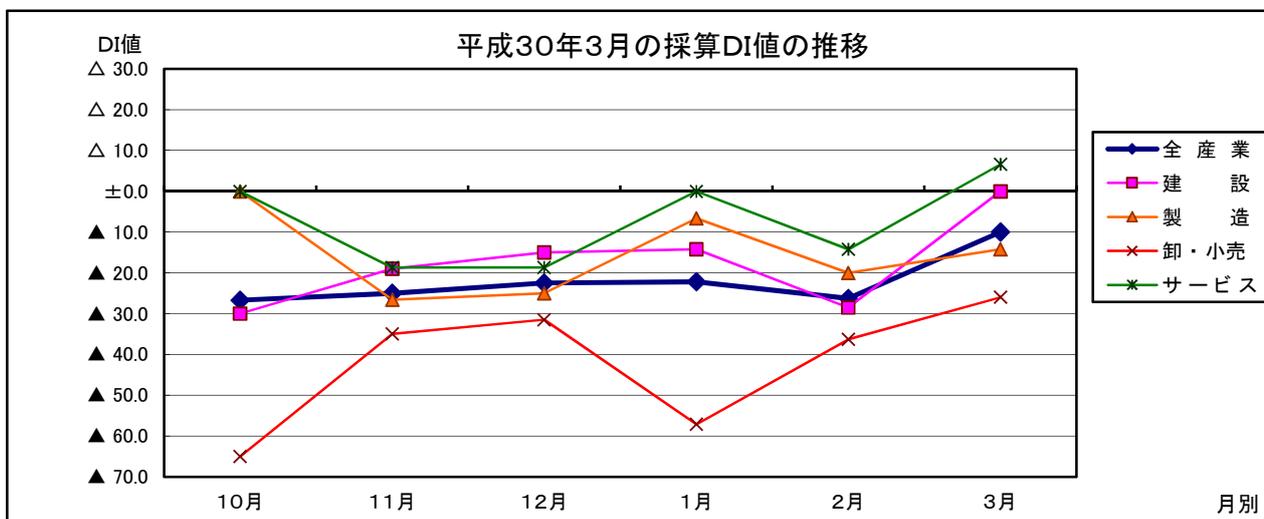
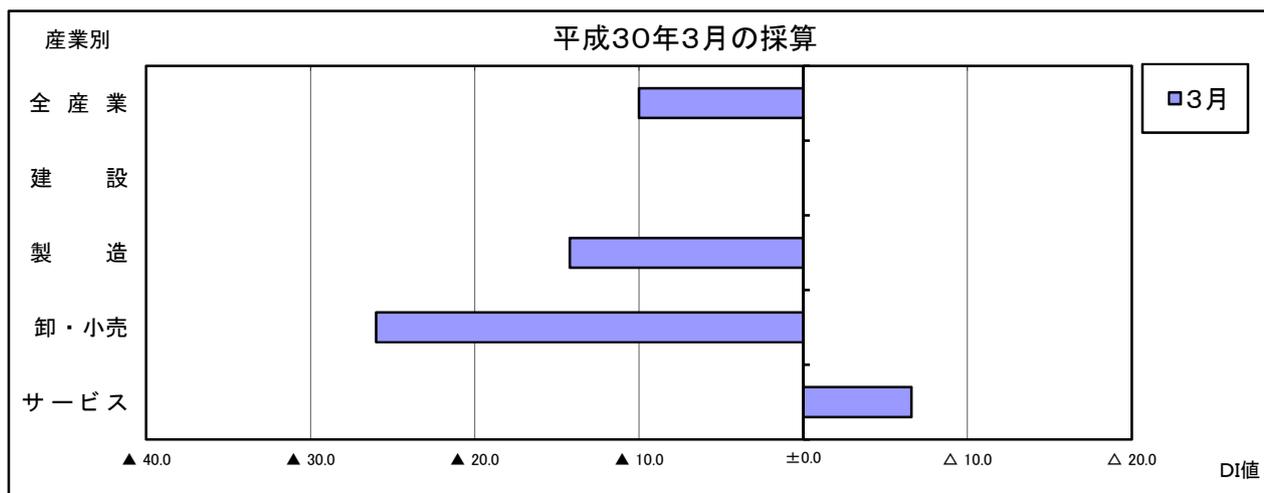
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲28.5)、卸小売業▲26.0(同▲36.6)、製造業▲14.2(同▲20.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△6.6(同▲14.2)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.8(前月水準▲9.7)であり、マイナス幅が3.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲14.2(同▲20.0)、卸小売業▲7.1(同▲20.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6.6(同△21.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲11.1(同▲9.5)である。

平成30年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲26.7	▲25.0	▲22.5	▲22.2	▲26.3	▲10.0	▲12.8(▲9.7)
建設	▲30.0	▲19.0	▲15.0	▲14.2	▲28.5	±0.0	▲11.1(▲9.5)
製造	±0.0	▲26.6	▲25.0	▲6.6	▲20.0	▲14.2	▲7.1(▲20.0)
卸・小売	▲65.0	▲35.0	▲31.5	▲57.1	▲36.3	▲26.0	▲21.7(▲22.7)
サービス	±0.0	▲18.7	▲18.7	±0.0	▲14.2	△6.6	▲6.6(△21.4)



【平成30年3月の仕入単価についての状況】

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.8(前月水準▲40.2)となり、マイナス幅が7.4ポイント縮小した。

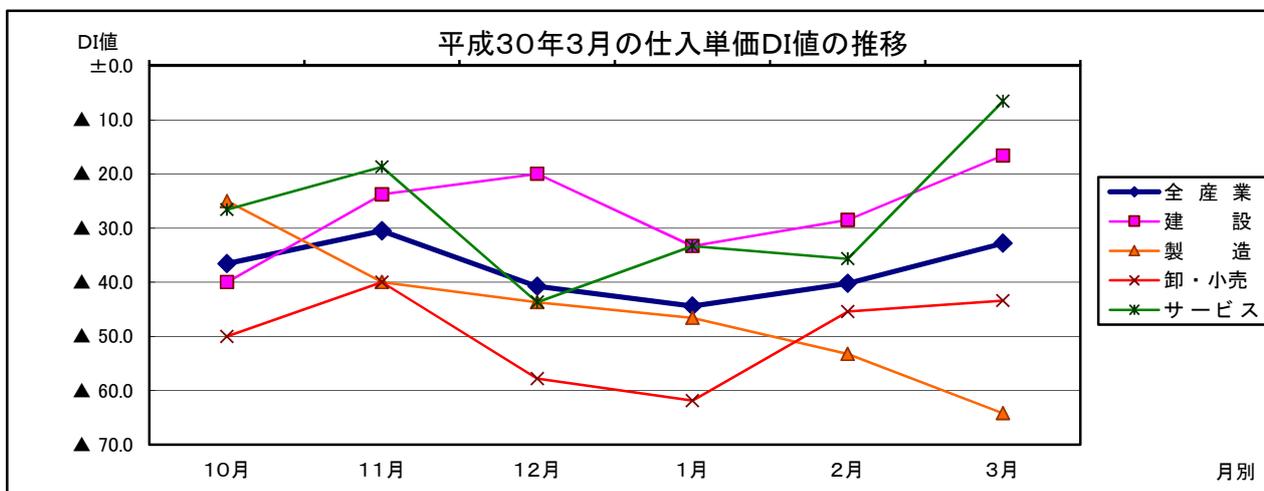
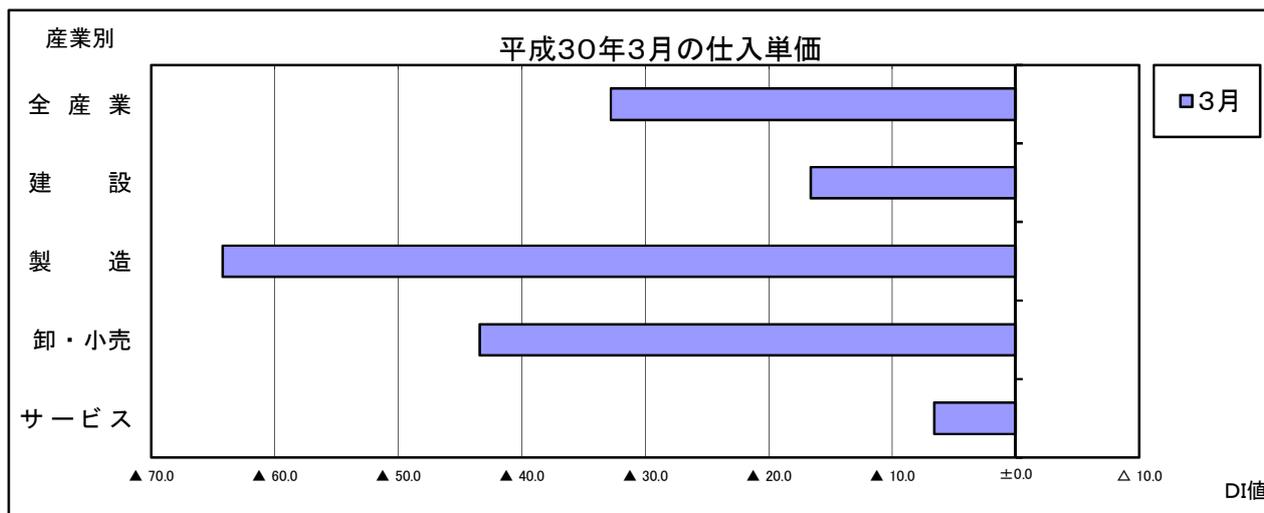
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲35.7)、建設業▲16.6(同▲28.5)、卸小売業▲43.4(同▲45.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲64.2(同▲53.3)である。

○向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.7(前月水準▲27.7)となり、マイナス幅が2.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲26.0(同▲40.9)、建設業▲16.6(同▲28.5)、サービス業▲13.3(同▲14.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲50.0(同▲20.0)である。

平成30年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲36.6	▲30.5	▲40.8	▲44.4	▲40.2	▲32.8	▲25.7(▲27.7)
建設	▲40.0	▲23.8	▲20.0	▲33.3	▲28.5	▲16.6	▲16.6(▲28.5)
製造	▲25.0	▲40.0	▲43.7	▲46.6	▲53.3	▲64.2	▲50.0(▲20.0)
卸・小売	▲50.0	▲40.0	▲57.8	▲61.9	▲45.4	▲43.4	▲26.0(▲40.9)
サービス	▲26.6	▲18.7	▲43.7	▲33.3	▲35.7	▲6.6	▲13.3(▲14.2)



【平成30年3月の従業員についての状況】

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△14.2(前月水準△22.2)となり、プラス幅が8.0ポイント縮小した。

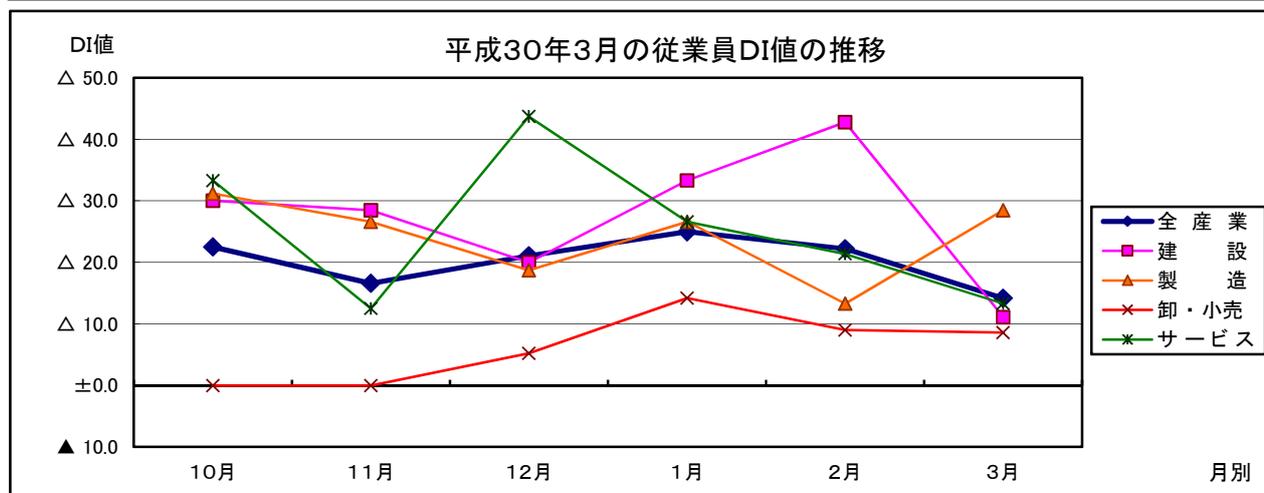
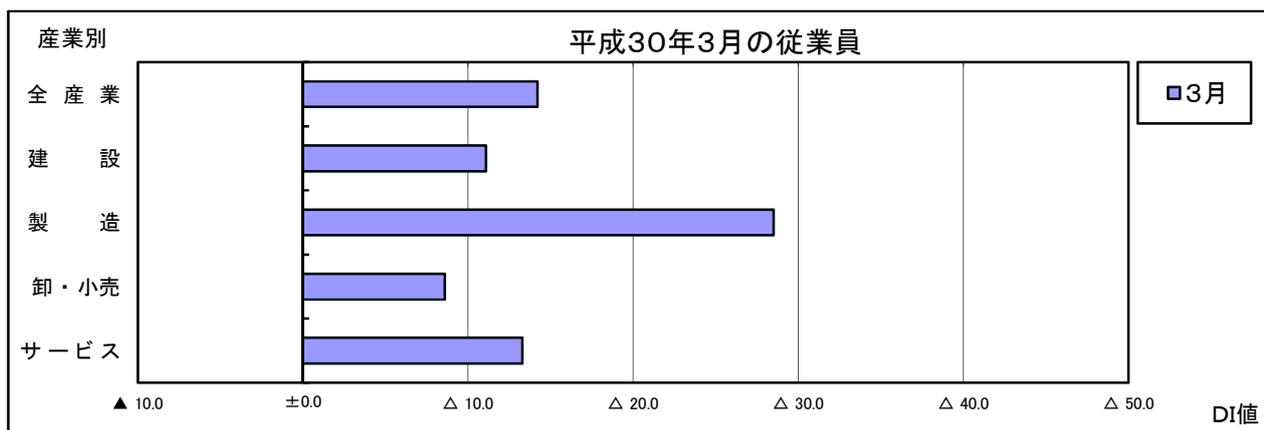
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△28.5(同△13.3)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△11.1(同△42.8)、サービス業△13.3(同△21.4)、卸小売業△8.6(同△9.0)である。

○向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△14.2(前月水準△27.7)であり、プラス幅が13.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△28.5(同△26.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△11.1(同△42.8)、卸小売業△8.6(同△18.1)、サービス業△13.3(同△21.4)である。

平成30年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	△22.5	△16.6	△21.1	△25.0	△22.2	△14.2	△14.2(△27.7)
建設	△30.0	△28.5	△20.0	△33.3	△42.8	△11.1	△11.1(△42.8)
製造	△31.2	△26.6	△18.7	△26.6	△13.3	△28.5	△28.5(△26.6)
卸・小売	±0.0	±0.0	△5.2	△14.2	△9.0	△8.6	△8.6(△18.1)
サービス	△33.3	△12.5	△43.7	△26.6	△21.4	△13.3	△13.3(△21.4)



【平成30年3月の資金繰りについての状況】

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.8(前月水準▲11.1)となり、マイナス幅が8.3ポイント縮小した。

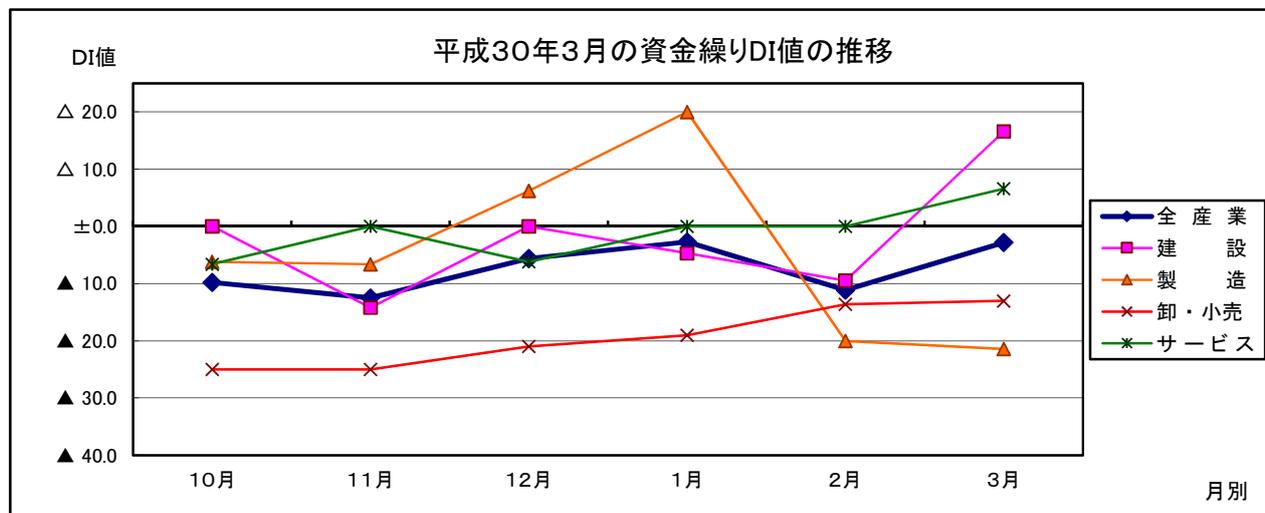
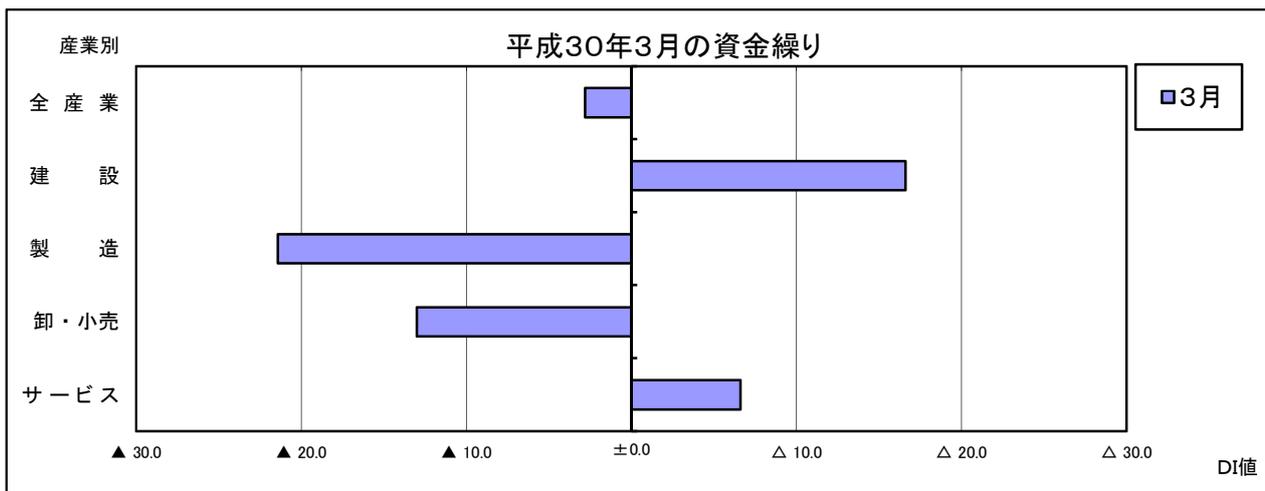
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△6.6(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△16.6(同▲9.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲13.0(同▲13.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲21.4(同▲20.0)である。

○向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.7(前月水準▲1.3)となり、マイナス幅が4.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△6.6(同±0.0)、建設業△5.5(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.7(同±0.0)、製造業▲7.1(同▲6.6)である。

平成30年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成29年 10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲9.8	▲12.5	▲5.6	▲2.7	▲11.1	▲2.8	▲5.7(▲1.3)
建設	±0.0	▲14.2	±0.0	▲4.7	▲9.5	△16.6	△5.5(±0.0)
製造	▲6.2	▲6.6	△6.2	△20.0	▲20.0	▲21.4	▲7.1(▲6.6)
卸・小売	▲25.0	▲25.0	▲21.0	▲19.0	▲13.6	▲13.0	▲21.7(±0.0)
サービス	▲6.6	±0.0	▲6.2	±0.0	±0.0	△6.6	△6.6(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	△ 1.4	▲ 5.7	▲ 10.0	▲ 12.8	▲ 32.8	▲ 25.7	△ 14.2	△ 14.2
建設	△ 11.1	±0.0	±0.0	▲ 11.1	▲ 16.6	▲ 16.6	△ 11.1	△ 11.1
製造	▲ 7.1	±0.0	▲ 14.2	▲ 7.1	▲ 64.2	▲ 50.0	△ 28.5	△ 28.5
卸・小売	▲ 17.3	▲ 13.0	▲ 26.0	▲ 21.7	▲ 43.4	▲ 26.0	△ 8.6	△ 8.6
サービス	△ 26.6	▲ 6.6	△ 6.6	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3	△ 13.3	△ 13.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 11.4	▲ 5.7	▲ 2.8	▲ 5.7
建設	▲ 11.1	▲ 5.5	△ 16.6	△ 5.5
製造	±0.0	±0.0	▲ 21.4	▲ 7.1
卸・小売	▲ 26.0	▲ 13.0	▲ 13.0	▲ 21.7
サービス	±0.0	±0.0	△ 6.6	△ 6.6

【平成30年3月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	暖かくなり動き始めた感じがします。来年の消費税UPを見込んで出足がいい感じがします。	天候の影響 消費税増税	一般土木建築工事業
	売上は増加しているものの、材料・その他経費の値上がりで収益率は減少気味である。	仕入高騰	電気工事業
	景況が改善している要因はやはり新生活や人事異動で貸アパートの畳表替が急増している事です。フレッシュャーズに幸あれ！	年度末需要	内装工事業
	多くの業者仲間が現状を肌で感じているさまは、不況業種に仲間入りしている感が否めない状況ではありますが、私はそうはとらえていません。私たち住宅業界はまだまだ創意工夫・努力が必要で、他業界の「乾いた雑巾を絞る」には遠く届いていない気がします。技術向上においても美容業界の技術向上意欲に見習いたいと思っています。	業界不況 技術向上	一般土木建築工事業
製造業	年度末の気配が全く感じない。消費税UPの動向を追いかけたい。	消費税増税	印刷業
	部品の入手性の悪さは改善されない。材料費、運賃が値上げしており収益への影響が懸念される	仕入高騰	その他の機械・同部品製造業
	2020年に向けてのオリンピックの意識が働いているのか少し活気を感じるが微動である。如何にして生活を安定させるかの不安が大きい。	オリンピック需要	印刷業
卸小売	昨年同月に比べ天候与件(雨が多かった為)客数減。特に衣料品・住まいの品が売上減。食品は生鮮部門の売上が厳しい状況。採用活動は実施しているが応募者少なく採用が厳しい状況。食品売場を中心に欠員が発生している。	天候の影響 人手不足	その他の各種商品小売業
	当店のファンのお客様は遠方の方も多いが、近隣の購買層が高齢化が甚だしくお客様のパイは減少している。	顧客高齢化	書籍・文房具小売業
	食に係る業態は、人手不足(採用難)・食材費の高騰などにより、収益面での悪化。また、労務管理などでの行政の規制強化により、小規模事業者としては事業継続にメリットを見いだせない状況です。	人手不足 仕入高騰 労務管理	各種食料品小売業
	卒業や送別会等の特注が例年より増。その分お店の売上減のため結果トントン。	年度末需要	菓子・パン小売業
サービス業	北部開発のため、道路整備・住宅開発が盛んなので、昼ランチの来店客が増している。	北部開発	食堂・レストラン
	人手不足が解消されない	人手不足	一般貨物自動車運送業
	問い合わせ件数は少なくなっています。それにもかかわらず買うという所まではいつてもませんが、慎重な方が多いので結論までの日数が永いです。売却査定も多いですが売るまでの時間が同じように永くかかっています。	不動産問合せ減 契約長期化 不動産査定増	不動産管理業
	飲食の開店ラッシュは不動産業にも好影響です。商売は今あるものをどう利用するかです。そごう跡の無利用のムダが残念でなりません。	飲食店開店増 そごう閉店	不動産賃貸業
	大規模な建物修繕がここ数年で複数棟到来するので月次の積立額を増額しました。なるべく自己資金で賄えるようにしたいのですが予想外の出費も多いのでなかなか大変です	修繕費増	不動産賃貸・管理業
	働き方改革は中小には厳しい状況	働き方改革	ソフトウェア業

平成30年3月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.4に対し、「CCI-LOBO」が▲15.8で柏の方がマイナス幅が4.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、全てで、サービス業で10ポイント以上良い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△1.4に対し、「CCI-LOBO」が▲11.1で柏の方がプラス幅が12.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲16.5で柏の方がマイナス幅が6.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業である。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.8に対し、「CCI-LOBO」が▲41.0で柏の方がマイナス幅が8.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・製造業で、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△14.2に対し、「CCI-LOBO」が△26.4で柏の方がプラス幅が12.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・サービス業・卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.8に対し、「CCI-LOBO」が▲10.1で柏の方がマイナス幅が7.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業・卸小売業であり、建設業・サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業で10ポイント以上悪い。

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(3月速報)

調査期間：平成30年3月14日～20日

調査対象：全国の422商工会議所が3887企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、3カ月ぶりの改善。先行きは回復への期待感あるも、ほぼ横ばい

3月の全産業合計の業況DIは、▲15.8と、前月から+1.3ポイントの改善。電子部品や産業用機械、自動車関連の生産が全体を牽引したほか、インバウンドを含む観光需要や都市部を中心とした再開発、設備投資が引き続き堅調に推移した。他方、深刻な人手不足や原材料費・燃料費の上昇、食料品・日用品に対する消費者の低価格志向を指摘する声は依然として多い。中小企業の景況感は、総じて緩やかな回復基調が続いているものの、その動きは力強さを欠いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲14.0（今月比+1.8ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。個人消費の持ち直しやインバウンドを含めた観光需要拡大、生産や設備投資の堅調な

推移への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響拡大や、原材料費・燃料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、米国による追加関税措置の影響など世界経済・貿易に対する先行き不透明感を懸念する声も多く、中小企業の業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事が減少し、売上は悪化。人件費上昇による採算圧迫や受注機会会の損失など、技術者不足の影響も深刻化している」（土木工事業）、「工場などの設備投資需要が多く、売上は改善した。生産性向上を図るため、ICTを活用した新しい施工技術の導入を検討している」（一般工事業）

【卸売業】「製造業や建設業からの発注が増加し、業績は改善。ベースアップの実施や社内教育の強化により、社員の士気・営業力を向上させ、さらなる売上増を図る」（化学製品卸売業）、「供給不足に伴う農産物価格の高止まりにより、採算は悪化した。だが、今月は天候が落ち着いたので、来月には高値が一段落する見込み」（農産物卸売業）

【製造業】「輸出が引き続き好調で、売上は改善。だが、アメリカによる鉄鋼・アルミ製品の追加関税が日本にも適用されれば、当社の売上に影響が生じるのではないかと懸念している」（金属製品製造業）、「燃料費や運送費、原材料価格などの上昇が続く、採算の確保が難しい。販売先に対する価格転嫁交渉を進めると同時に、コストを抑えた新商品の開発を急がねばならない」（繊維製造業）

え、例年より暖かい日が続いたことで、春物衣料に動きが見られ、売上増となった」（衣料品小売業）、「消費者の低価格志向が根強く、売上は悪化。人件費や仕入価格が上昇しているが、他社が商品価格を据え置いているため、価格転嫁に踏み切れず、採算も悪化した」（スーパーマーケット）

【サービス業】「燃料費や人件費の上昇で、採算の確保には苦戦しているが、新年度に向けた引越し需要や製造業からの依頼が多く、売上は堅調」（運送業）、「人手不足の深刻化から、営業時間を短縮せざるを得ず、売上は悪化。それでも客の来店が集中する時間帯には、料理の提供が遅れるなど、対応が間に合わないことがある」（飲食業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲16.0	▲11.4	▲9.3	▲13.1	▲34.6	▲12.8
11月	▲14.9	▲10.0	▲4.2	▲24.3	▲31.7	▲10.9
12月	▲13.3	▲7.4	▲6.7	▲17.4	▲25.8	▲11.5
1月	▲14.4	▲13.6	▲5.1	▲12.2	▲25.2	▲16.1
2月	▲17.1	▲11.4	▲10.1	▲20.8	▲27.3	▲17.9
3月	▲15.8	▲13.5	▲6.1	▲18.8	▲26.9	▲16.3
見通し	▲14.0	▲21.2	▲4.6	▲16.2	▲24.7	▲8.5

柏の景気情報

(3月の調査結果のポイント)

調査期間：平成30年3月27日～4月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数70件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲19.7	▲10.0	± 0.0	▲60.0	± 0.0
11月	▲23.6	▲19.0	▲ 6.6	▲50.0	▲12.5
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	± 0.0
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲ 7.1
3月	▲11.4	▲11.1	± 0.0	▲26.0	± 0.0
見通し	▲ 5.7	▲ 5.5	± 0.0	▲13.0	± 0.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iはすべての業種で改善したが、先行きは慎重な見方もありほぼ横ばい

3月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下(同じ)は、▲11.4(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が10.8ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲20.0)、卸小売業▲26.0(同▲40.9)、

サービス業±0.0(同▲7.1)、建設業▲11.1(同▲14.2)である。

【建設業】からは、「暖かくなり動き始めた感じがする。来年の消費税UPを見込んで出足がいい」(一般土木建築工事業)、「景況が改善している要因は、やはり新生活や人事異動などで貸アパートの畳表替が急増しているため。フレッシュャーズに幸あれ！」(内装工事業)「多くの仲間が肌で感じている現状は、不況業種に仲間入りしている感が否めない。が、私はそう捉えてなく、住宅業界はまだまだ創意工夫・努力が必要。技術向上においても美容業界の技術向上意欲を見習いたい」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「年度末の気配が全く感じない。消費税UPの動向を追いかけた」(印刷業)、「オリンピックへの意識が働いているのか少し活気を感じる。如何にして生活を安定させるかの不安が大きい」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは「昨年同月に比べ雨が多かった為客

数減。特に衣料品・住まいの品が売上減。食品は生鮮部門の売上が厳しい状況」(各種商品小売業)、「当店ファンのお客様は遠方の方も多いが、近隣の購買層が高齢化が甚だしくお客様のパイは減少している」(書籍・文房具小売業)、「卒業や送別会等の特注が例年より増。その分お店の売上減のため結果トントン」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

三月の景気キーワード

◎人手不足

各業種より、「採用活動は実施しているが応募者少なく採用が厳しい状況。食品売場を中心に欠員が発生している」(各種商品小売業)、「食に係る業態は、人手不足(採用難)などにより収益面で悪化。また、労務管理などの行政規制強化により、小規模事業者としては事業継続にメリットを見いだせない」(各種食料品小売業)、「人手不足が解消されない」(一般貨物自動車運送業)、「働き方改革は中小には厳しい」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲11.4に対し、「CCI-LOBO」が▲15.8で柏の方がマイナス幅が4.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、全てで、サービス業で10ポイント以上良い。

◎原材料費高騰

各業種より、「売上は増加しているが、材料・その他経費の値上がりで収益率は減少気味」(電気工事業)、「部品の入手性の悪さは改善されない。材料費・運賃が値上げしており収益への影響が懸念される」(機械・同部品製造業)、「食に係る業態は、食材費の高騰などにより収益面で悪化」(各種食料品小売業)との声が寄せられた。

【卸小売業】からは「昨年同月に比べ雨が多かった為客

数減。特に衣料品・住まいの品が売上減。食品は生鮮部門の売上が厳しい状況」(各種商品小売業)、「当店ファンのお客様は遠方の方も多いが、近隣の購買層が高齢化が甚だしくお客様のパイは減少している」(書籍・文房具小売業)、「卒業や送別会等の特注が例年より増。その分お店の売上減のため結果トントン」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。